

COVID-19 パンデミック状況下での正課外学生プロジェクトチームによる 地域連携活動

Collaboration activities in local community by an extra-curriculum student project team under COVID-19 pandemic situation

千歳科技大理工 長谷川 誠

Chitose Inst. of Science and Technology, Makoto Hasegawa

E-mail: hasegawa@photon.chitose.ac.jp

1. はじめに

正課外で活動する学生プロジェクトチーム・理工工房は、約 15 年間に渡って地域の小中学校、認定こども園、児童館、科学館などでの実験授業や科学教室、様々なイベントにおける実験デモンストレーション等を積極的に実施しており、最近の年間活動件数は 100 件近くに達している^[1-2]。COVID-19 の影響で 2020 年度の活動は大きく制約されたが、一部の小学校や認定こども園での活動は実施できた。従来と異なる環境が学生プロジェクトの活動に与えた影響を紹介する。

2. 認定こども園での科学体験教室

昨年までの認定こども園での活動では、年少組、年中組、年長組のそれぞれについて約 30 分間ずつの時間を使って演示実験及び工作活動を通した科学体験を実施していた。それに対して 2020 年は、まず 10 月初めに一つの認定こども園で、Zoom を使って科学体験活動を提供した。具体的には、大学で学生が演示実験を行っている映像をこども園のホールに設置した大型スクリーンに映し、集まった年長組の子どもたちとは画面越しに対話を行った。後日にこども園から、子どもたちはスクリーン上の映像に集中して楽しんでいたと言ってもらえたが、実施した学生は、画面越しにいかにか子どもたちを集中させるかに苦勞し、また間合いの取り方に苦心していた。その後 11 月には、他のこども園で、参加学生の人数を減らした上で活動を実施した。

3. 小学校での理科実験授業

従来の実験授業では児童の各班に学生一人を配置するなど約 10 名の学生が参加していたが、2020 年 11 月及び 12 月の実験授業では、教室内の密をできるだけ避ける目的で参加学生の人数を 5 名に抑えて実施した。実験授業の進行内容は従来と同じであり、確実な進行が実現できるように学生たちは事前の進行練習や手順確認を入念に行っていた。その他にも、様々な事態の発生を想定して対処方法を事前に検討するなど、学生たちには良い経験の場になったようである。

4. おわりに

2021 年 1~2 月にも認定こども園での科学体験活動、小学 5 年生対象の理科実験授業、札幌市青少年科学館での科学教室など 6 件の活動が予定されている。その参加メンバを選ぶ際に、2 年生以上のメンバは 1 年生にできるだけ経験を積ませようとしている（活動の顧問としての筆者は何も指示していない）。通常と異なる環境下での活動は、学生メンバが自ら成長する機会になった。

参考文献：(1)長谷川, 科学技術コミュニケーション, 26, pp.3-16 (2020-3) (2)長谷川, 物理教育, 68(1), pp.42-45 (2020-3)